

# 下館ロータリークラブ会報

SHIMODATE ROTARY CLUB WEEKLY REPORT 2023-24

第 02655 号 発行日：令和 6 年 2 月 14 日



世界に希望を生み出そう

本日のプログラム

外部卓話

田中敏弘氏

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



次週のプログラム

インターシティミーティング

八千代町 YUKIYA

会長／宮田 憲一 副会長／神山 芳子 幹事／堀 江 勤 会長エレクト／宮田 憲一

例会 毎週水曜日 12:30 ダイヤモンドホール (〒308-0847 茨城県筑西市玉戸1053-4 ☎0296-28-8511)  
ホームページ <http://www.shimodate-rc.gr.jp> Eメール [shimodate@ri2820.jp](mailto:shimodate@ri2820.jp)



前例会報告 第 3044 回 2024/2/7(水)

## 会長挨拶

宮田 憲一 会長

みなさん、こんにちは。

今月24日土曜日に、第5分区のインターシティミーティングが八千代町の結城家にて開催予定となっております。RLIをテーマとした内容となっております。

そこで本日のプログラムは月間テーマ卓話を予定しておりましたが、次週に変更しまして本日は、クラブ協議会としまして『RLI』についての予習を行いたいと思います。

さて今月のロータリー月間は『平和構築と紛争予防月間』となっております。

今年または昨年に1万人以上が亡くなっている武力紛争には、ウクライナ紛争をはじめ、イスラエル・パレスチナ紛争、イエメン内戦、ミャンマー内戦などが挙げられ、それ以外にもシリアやソマリアなど現在も続いております。

その武力紛争の数は世界で100を超えているといわれています。そこに気候変動などによる食糧やエネルギーの問題が人々の生活に追い打ちをかけている状況です。

紛争での一番の被害者となるのは、子どもや高齢者、障がい者など弱い立場にある人々です。紛争・暴力・弾劾・人権侵害などによって家を追われた人々の数は7000万人で、その半数が子どもなのです。

『ロータリー』は人道的組織として平和な環境をつくることが使命です。

世界中のロータリアンが奉仕プロジェクトや平和フェロー・奨学生への支援を通じ、貧困・差別・民族間の衝突・教育機会の欠如・リソースの不平等な配分といった『紛争の根底にある問題』に取り組むために行動を起こしています。

平和の推進におけるロータリーの4つの役割についてご紹介したいと思います。

### 【ロータリーとロータリー会員が担う役割】

①実践者：疾病との戦い、水と衛生、母子の健康、教育の支援、地域経済の発

展といった分野でのロータリーの活動は、平和な社会への最適な条件をつくりだします。

②教育者：ロータリー平和センターは、効果的な平和の推進者となる1700人の平和フォローを育成してきました。卒業したフェローは、政府、教育、国際機関などで平和分野のキャリアを築いています。

③調停者：ロータリー会員は、ポリオの脅威にさらされた地域のすべての子どもにワクチンを投与するため、紛争地域における人道的停戦の交渉を行ってきました。

④提唱者：ロータリー会員は、平和構築や紛争後の復興プロセスに積極的に関わり、重要な役割を果たしています。

## ウクライナから届いた日本への感謝のメッセージ

### 日本のロータリーが仮設住宅設置プロジェクトを支援

寄稿者：新井和雄（下館ロータリークラブ会員、国際ロータリー第2820地区バスターナー）



— ウクライナから届いた日本のロータリーへの感謝のメッセージ動画

### ウクライナからのSOSに日本のロータリーが応える

ウクライナ第2232地区は、2021年9月に第2820地区（茨城）がホストを務めた「地球環境保全グローバルプロジェクト」に参加し、ウクライナ各地で海岸や河川、湖沼、各地の公園の清掃を行ってきました。その縁もあって、今年2月23日にはオンラインでロータリー117回目の誕生日を一緒に祝い、そこでは国際紛争が始まる気配などまったく感じられませんでした。ところが一夜明けた24日、ウクライナ各地がミサイル攻撃され、多くの市民が被災したと昨年度バスター（2021-22年度）のボンダレンコさんから連絡がありました。

ボンダレンコさんの悲しいSOSを受け、早速ウクライナと関係のある日本各地のクラブが現地のクラブと協力し、被災者への援助を始めました。また、日本の34地区もそれぞれ資金をし





たり、ウクライナのための災害救援基金に寄付をしたり、被災地のロータリークラブに資金援助をしたりしました。



ー 日本とウクライナのガバナーによるウクライナ支援緊急会議 (2022年6月13日)

ロータリー財団に災害救援補助金を活用したウクライナ支援の仕組みができあがると、第2630地区(三重・岐阜)の昨年度ガバナーである浦田幸一さんが6月にウクライナと日本の同期ガバナーを招き、Zoomを使ってウクライナ支援に関する緊急会議を開きました。会議では、ウクライナ各地で何が起きているのか、どの地域の誰が一番困っているのか、ロータリーは何ができるかなど、ボンダレンコさんから詳しい説明がありました。

#### 災害救援補助金を活用して仮設住宅を設置

緊急会議での説明を受け、日本のロータリーとしては、災害救援補助金を活用して特に強い要望のあったムシユン村へ仮設住宅の設置をすること、各地方都市へ救急車・消防車などの特殊車両を寄贈することになりました。

長閑な田園が広がるムシユン村は、ロシアとウクライナの首都キーウを結ぶ交通要所であったために激しい戦闘に巻き込まれていました。多くの村民が家を失い、その惨状がボンダレンコさんから伝えられました。

ムシユン村で仮設住宅を設置しようと決めたものの、日本ではウクライナ人道支援のために災害救援補助金を活用した経験はありません。今から申請して、いつ承認されるのか？ウクライナに送金できるのか？仮設住宅の製造・設置業者は操業を続けられるのか？ウクライナに厳しい冬が訪れる前に仮設住宅を引き渡せるのか？



ー 日本からの1棟目につけられた第2820地区のプレート

これらの疑問に対して確実な答えが何一つない中で、まず第2820地区がウクライナのバスターガバナーであるセルギーさんと協力して申請書を作成し提出したところ、わずか5日でロータリー財団から承認が下りました。これと同じ申請をほかの18地区でも行っていたので、補助金が次々と承認されました。承認の7日後にはプロジェクト口座に補助金が入金されました。

仮設住宅の製造業者であるインデックススチール社により約1月で2棟が完成し、9月15日には日の丸の付いた2棟の仮設住宅が設置され2家族に引き渡されました。また、日本のロータリーからの支援に対してウクライナから感謝の動画メッセージが届き、11月のロータリー研究会で上映されました。

ムシユン村の住宅再建は、ロータリーによるウクライナ復興支援のシンボルとなっています。ムシユン村には、日本の19地区を含め、世界各地からの支援により約200棟の仮設住宅が順次設置されており、さながら「ロータリー村」の様相を呈しています。紛争に巻き込まれ、すべてを破壊された村民たちが、厳しい冬の寒さを乗り越え、再び希望を持って自宅や生活基盤を取り戻すための第一歩となるでしょう。

#### ロータリーが平和構築と紛争予防に取り組むことの意義

各国政府による「国家の安全保障」は、国民の生命と財産を守るためにとても重要な概念です。他方、理念や価値観を共有するグローバルな組織であるロータリーは、「人間の安全保障」という地球全体の視点から、平和構築や医療・教育・地域経済の支援、貧困緩和などを通じて、争いの火種を消してゆくことができます。



ー 中央が第2820地区バスターガバナーのボンダレンコさん、右4つ・ロータリークラブ運営ボランティアメンバーにて。

ヒューストン国際大会でウクライナの国旗が入場した時、会場にいたロータリーファミリー全員がスタンディング・オベーションで迎えました。湧りやまない拍手の渦の中にいた私は、平和が当たり前と思って何も行動しない消極的平和を批判しながら、益が少しずつあった人たちに手を差し伸べるような積極的平和の旗手となるのがロータリアンなのだとか強く感じました。

第2820地区では新井バスターガバナーが中

心となり、発生当初からウクライナへの人道支援が現在も継続的に行われており、私たちはその必要性を感じています。

その他、マイロータリーでは様々なプロジェクトが紹介されています。

ぜひご覧ください。

そして次週のプログラムは新井さんのご紹介で元国連職員の田中俊裕様の卓話です。国連で平和構築と紛争予防の最前線にいた方です。お話しがとても楽しみです。次週もご参加のほどよろしく願いいたします。

## 幹事報告 堀江 勤 幹事

### ○ガバナー事務所より

- ・ R I 頭分担金・地区分担金の支払い
- ・ 米山奨学生終了式の案内
- ・ 第2回会長幹事会の案内

### ○ガバナーエレクト事務所より

- ・ 2024年度米山奨学生の案内  
ツジモト・エダ(トルコ・筑波大博士課程1年)
- ・ 24-25R財団地区補助金セミナーの案内  
3月9日(土) 10時 水戸三の丸ホテル

### ○下妻RCより

- ・ I Mのパネリスト2人選出の依頼

### ○岩瀬RCより

- ・ 2月例会変更の案内

### ○筑西市国際友好協会より

- ・ 異文化交流の案内 3月3日(日) アルテリオ

## 卓話 RLIについて

宮田 憲一 会長

### RLIとは



ロータリーリーダーシップ研究会(RLI)は、世界各地の地区に組織された会員地区の他地区合同、草の根レベルの指導力育成プログラムです。

このプログラムは国際ロータリーによって推奨されています。ロータリーリーダーシップ研究会(RLI)は3回の理事会と規定審議会によって強く推奨されました。

RLIは、最近ロータリー・クラブに入会した会員を含む、潜在的なクラブ役員および他のクラブ会員を対象に、一連の質の高い指導力育成コースを実施しています。コースは、世界中の指導力とロータリーの知識を重視しています。すべてのコースセッションは完全にインタラクティブです。81のRLI地域は、指導力育成が会員の熱意を生み出し、ロータリーへの参加を促進することによって会員維持にプラスの影響を与えると信じています。



## RLIの目的

RLIの目的は、DLから与えられたテーマに関して、参加者同士で議論を交わす事で、ロータリーに関して色々な角度から考える機会を得て、参加者個人個人が新たな気づきを得る場です。そこには、色々なクラブが持つ多様性を認め自クラブの状況を客観的に見る事でクラブのさらなる可能性を見出していただきます。

最終的には、クラブの将来のリーダーを育てる目的がありますが、新会員にも他クラブの方と意見交換する事で広い視野を持った会員に育てることが出来ます。

この様な刺激が入会歴の浅い会員の大会防止に効果があると考えられます。

### パートⅠ★1

- 1 ロータリーにおけるリーダーシップ(MyLeadershipInRotary)
- 2 私のロータリー世界(My Rotary World)
- 3 倫理と職業奉仕(Ethics - Vocational Service)
- 4 財団I 私たちの財団 (Our Foundation)
- 5 会員の参加を促す(Engaging Members)
- 6 奉仕プロジェクトを創造する(Creating Service Projects)

### パートⅡ★2

- 1 ロータリーの機会(Rotary Opportunity)
- 2 効果的なリーダーシップ戦略(Effective Leadership Strategies)
- 3 会員を勧誘する(Attracting Membership)
- 4 チーム作り(Team Building)とクラブコミュニケーション(Club Communication)
- 5 ロータリー財団II 目標とする奉仕 (Targeted Service)
- 6 米山記念奨学事業(Rotary Yoneyama Memorial Foundation)

### パートⅢ★3

- 1 戦略計画とクラブの分析(Strategic Planning & Analysis)
- 2 ロータリー財団III 国際奉仕(International Service)
- 3 公共イメージと広報 (Public Image & Public Relations)
- 4 強いクラブを創る (Building A Strong Club)
- 5 規定審議会・決議審議会(The Council on Legislation & Council on Resolutions)
- 6 変化をもたらす(Making a Difference)

## ポール ハリス フェロー 表彰



## スマイルBOX 鈴木 健一 副委員長

### 《お祝い事》

✿結婚記念 鈴木 健一さん

✿パートナー誕生 神山 芳子さん

▶宮田 憲一さん 本日はRLI予習です。  
よろしくお願いいたします。

▶堀江 勤さん 宮田会長「RLIについて」勉強させて頂きます。

▶潮田 武彦さん クラブ協議会、宮田会長  
よろしくお願いいたします。

▶松浦 真也さん 宮田会長、本日はよろしく  
お願いいたします。

本日の合計 22,000円 累計 346,000円

## 出席報告

| 会員数 | 出席数 | 欠席数 | 病欠 | 免除 |
|-----|-----|-----|----|----|
| 19  | 10  | 5   | 1  | 3  |



## ロータリー の目的

ロータリーの目的は、意義ある事業の基礎として奉仕の理想を奨励し、これを育むことにある。具体的には、次の各項を奨励することにある：

- 第1 知り合いを広めることによって奉仕の機会とすること；
- 第2 職業上の高い倫理規準を保ち、役立つ仕事はすべて価値あるものと認識し、社会に奉仕する機会としてロータリアン各自の職業を高潔なものにすること；
- 第3 ロータリアン一人一人が、個人として、また事業および社会生活において、日々、奉仕の理想を实践すること；
- 第4 奉仕の理念で結ばれた職業人が、世界的ネットワークを通じて、国際理解、親善、平和を推進すること。